

持続可能な財政運営をめざして



はじめに

士別市が将来にわたりまちの魅力と活力を保ち続け、今後も着実にまちづくりを進めるためには、持続可能な財政運営が必要不可欠です。

現在の社会情勢を鑑みると、高度経済成長期のような右肩あがりの人口と収入の増加は見込めないなかで、担い手である生産年齢人口も減少し、従来どおりの行政サービスを提供する担い手の確保が困難であることから「予算措置を講じて人材を確保する」といった手法は立ちゆかなくなる点を強く意識した政策の企画立案、合意形成が必要となっています。

メリハリのある予算措置はもとより、必要なインフラ、行政サービス等を持続可能な形で提供するために、より大きな観点からの効率化・合理化を行う余地がないかなど、人口減少下における必要な対応に迫られています。

また、頻発する大雨地震等の自然災害や安全保障環境の変化等、国内外の潜在的なリスクに対する備えの必要性や過去に整備したインフラの老朽化対策などのさまざまな社会問題の解決に向けて、真摯に向き合う必要があります。

財政健全化実行計画の総仕上げに向けて

令和2年に策定した財政健全化実行計画は期間を3年度からの5年間と定め、残り1年となった現在、目標である「持続可能な財政基盤の確立」「基金に頼らない財政運営の構築」「財政調整基金残高3億円の確保」に向けて、具体的方策を着実に進めています。

しかしながら、物価高騰に伴う歳出の抑制効果の相殺や公共施設の最適化が進まないなか、目標達成に向けた具体的方策の総仕上げとして、事務事業と公共施設の聖域なき見直しが必要となっています。

カイゼンの視点

単に「財政が厳しいから」という視点ではなく、各種事業の目的や必要性などを再度見つめなおし、次の視点で事務事業見直しと公共施設の最適化を行います。

- ・ 合併した当時の人口2万4千人と同じ規模で提供しているサービス、事業はないか
- ・ 10年後を見据え、今からスリム化に着手が必要なものはないか
- ・ 他市町村と比較して過大なサービスや人員配置はないか
- ・ 民間と競合している事業や民間の事業を圧迫しているものはないか
- ・ 人員不足によってサービスの破綻が目に見えているものはないか
- ・ 著しく稼働率の低い（一部の受益者に偏った）設備、システム、サービスはないか
- ・ 経費はかからないもののマンパワーがかかり、効果が見合っていない事業はないか
- ・ 廃止はできなくても、サービスの提供方法を変更できそうなものはないか
- ・ 統合や共催によって重点化、他との差別化を図り、魅力を向上できそうなものはないか
- ・ 取り組みが形骸化し、漫然と行っている事業、サービス、イベントはないか

など

主な見直し対象事業（廃止縮小など）

「事務事業アセスメント」の取組による対象事業を選定し、見直しを行う主な事業

●令和7(2025)年度予算実施に向けて

- ①国際交流・地域間交流事業
- ②季節移住対策事業
- ③単位老人クラブ補助事業
- ④老人クラブ連合会運営事業
- ⑤子育て世帯サフォークポイント支援事業
- ⑥労働福祉対策推進事業
- ⑦図書・資料整備事業
- ⑧図書館管理運営事業
- ⑨あさひサンライズホール管理運営事業

●令和8(2026)年度予算実施に向けて

- ①グリーンパートナー推進事業
- ②みよし市・川内村小学生交流事業
- ③市民自主企画事業
- ④高齢者学習推進事業
- ⑤総合型スポーツクラブ推進補助事業

●令和9(2027)年度予算実施に向けて

- ①高齢者等入浴料助成事業
- ②いきいき健康センター管理運営事業（ぷらっと）
- ③世界のめん羊館管理運営事業

●事務の効率化・行政サービスの適正化

- ①投票所の見直し
- ②電子決裁・電子文書管理の推進
- ③オンライン会議の推進
- ④地域担当職員制度の廃止
- ⑤さほっちメールの廃止
- ⑥高齢者実態調査の廃止
- ⑦長期閉庁時の市役所臨時開庁廃止
- ⑧福祉灯油助成方法の見直し

公共施設の最適化

「公共施設マネジメント基本計画」に基づく、最適化に向けた統廃合予定施設

●公共施設最適化の必要性

このまま、公共施設最適化の取り組みを進めないと…



私たちの子ども世代や将来世代にまで影響する可能性がある。

●統合予定(8施設を4施設へ)

市民文化センター大ホール あさひサンライズホール	➡	あさひサンライズホール
日向スキー場 あさひスキー場	➡	日向スキー場
南郷プール 朝日プール	➡	南郷プール
農畜産物加工体験交流工房 農産加工実習施設	➡	農産加工実習施設

●廃止・休止予定

- | | |
|-------------|-------------|
| ①天塩川パークゴルフ場 | ⑥茂志利活性化センター |
| ②つくもスケート場 | ⑦朝日公民館壬子分館 |
| ③つくもカーリング場 | ⑧ // 三栄分館 |
| ④天塩川テニスコート | ⑨ // 登和里分館 |
| ⑤朝日多目的交流施設 | |

※⑦、⑧、⑨の機能は朝日公民館に統合

●施設のあり方継続協議

- | | |
|--------|--------|
| ①朝日中学校 | ③まなべる |
| ②東高校 | ④総合体育館 |

持続可能なまちをめざして

企画課まちづくり推進係 ☎ (26) 7790
財政課財政係 ☎ (26) 7788

将来人口を見据えた財政運営

士別市が将来にわたり、まちの魅力と活力を保ち、まちづくりをすすめるためには、持続可能な財政運営が不可欠です。

人口と収入の増加が見込めないなか、必要なインフラや行政サービスなどを持続可能な形で提供するために、より大きな観点から効率化・合理化を行う余地がないかなどの検討が必要です。

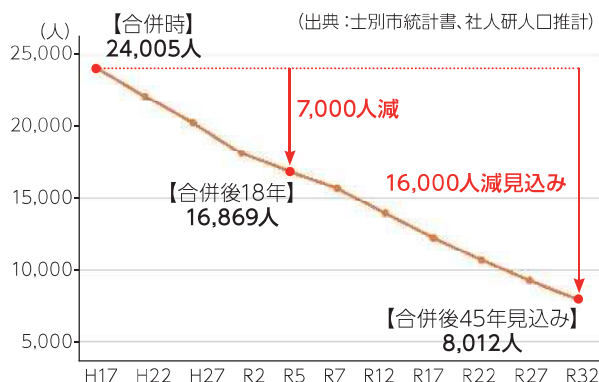
市では、令和2年に策定した財政健全化実行計画の目標である「持続可能な財政基盤の確立」「基金に頼らない財政運営の構築」「財政調整基金残高3億円の確保」の達成に向けて、具体的な取り組みをすすめています。

事業見直しの視点

- ✓ 合併当時の人口2万4千人と同じ規模で提供しているサービス、事業はないか
- ✓ 10年後を見据え、スリム化が必要なものはないか
- ✓ 他市町村と比較して、過大なサービスや人員配置はないか
- ✓ 民間と競合している事業や、民間の事業を圧迫しているものはないか
- ✓ 人員不足によって、サービスの破綻が想定されるものはないか

など

人口の推移



しかし、物価高騰にともない支出抑制の効果が薄まり、公共施設の最適化も遅れていることなどから、目標達成に向けて事務事業と公共施設の聖域なき見直しが必要です。

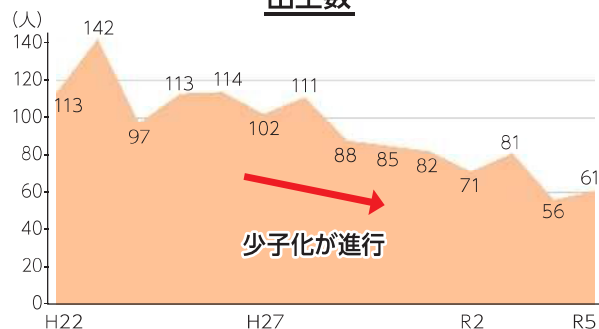
単に「財政が厳しいから」という考えではなく、各種事業の目的や必要性などを再度確認・検証し、左記の視点で、事務事業の見直しと公共施設の最適化を行います。

今後、人口減少が想定されますが、自然災害への対応や施設の老朽化対策、新たな行政需要などへの対応が必要であることから、一定の規模縮小が必要です。

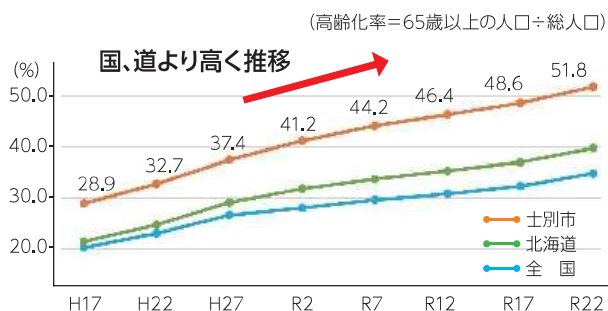
事務事業の見直しと公共施設の最適化をすすめるにあたり、市民への丁寧な説明を行っていきます。

また、市職員数の適正化も行う必要があるため、定員管理の検証もすすめます。

出生数



高齢化率の推移



おもな見直し対象事業

今後実施予定の下記事務事業において、適正化や廃止、規模縮小などを行います。

●事務の効率化・行政サービスの適正化

- ▶選挙における投票所の見直し
- ▶電子決裁・電子文書管理の推進
- ▶オンライン会議の推進
- ▶地域担当職員制度の廃止
- ▶さほっちメエ〜るの廃止
- ▶高齢者実態調査の廃止
- ▶長期閉庁時の市役所臨時開庁廃止
- ▶福祉灯油助成方法の見直し



●令和7(2025)年度

- ▶国際交流・地域間交流事業
- ▶季節移住対策事業
- ▶単位老人クラブ補助事業
- ▶老人クラブ連合会運営事業
- ▶子育て世帯サフォークポイント支援事業
- ▶労働福祉対策事業
- ▶図書・資料整備事業
- ▶図書館管理運営事業
- ▶あさひサンライズホール管理運営事業

●令和8(2026)年度

- ▶グリーンパートナー推進事業
- ▶みよし市・川内村小学生交流事業
- ▶市民自主企画事業
- ▶高齢者学習推進事業
- ▶総合型スポーツクラブ推進補助事業

●令和9(2027)年度

- ▶高齢者等入浴料助成事業
- ▶いきいき健康センター管理運営事業（ぷらっと）
- ▶世界のめん羊館管理運営事業

公共施設の最適化

公共施設マネジメント基本計画にもとづき、次の施設を統廃合します。

●統合予定施設（8施設→4施設）

- | | | |
|-----------------------------|---|-------------|
| 市民文化センター大ホール
あさひサンライズホール | ▶ | あさひサンライズホール |
| 日向スキー場
あさひスキー場 | ▶ | 日向スキー場 |
| 南郷プール
朝日プール | ▶ | 南郷プール |
| 農畜産物加工体験交流工房
農産加工実習施設 | ▶ | 農産加工実習施設 |



●廃止・休止予定施設（9施設）

- | | |
|-------------|-------------|
| ①天塩川パークゴルフ場 | ⑥茂志利活性化センター |
| ②つくもスケート場 | ⑦朝日公民館壬子分館 |
| ③つくもカーリング場 | ⑧朝日公民館三栄分館 |
| ④天塩川テニスコート | ⑨朝日公民館登和里分館 |
| ⑤朝日多目的交流施設 | |



第2次士別市まちづくり総合計画の策定

総合計画は、市がめざす将来像や目標を定めるとともに、その実現に向けて、市民・議会・行政が一体となってまちづくりをすすめるための基本方針を示す計画です。

市では、現行の総合計画が2025年で最終年を迎えるため「第2次士別市まちづくり総合計画」の策定をすすめています。

第2次総合計画では、2050年の将来や社会情勢の変化を見据え、市民が幸福を感じながら暮らせる、住みやすいまちの実現に向けた目標を設定します。



現行の総合計画（2018～2025）の状況

現計画（総合戦略）では、2025年の人口推計を約18,000人としています。

しかし、実際の2025年の人口見込みは約16,000人と、推計と実態で大きな差がある状況です。

市では、国の考え方や市の実態と合わせて、第2次総合計画の策定をすすめるなかで「人口推計」を見直します。

新たな人口推計（2026年～）

	2030年	2033年	2040年	2050年
目標人数	14,100人	13,200人	11,100人	8,600人

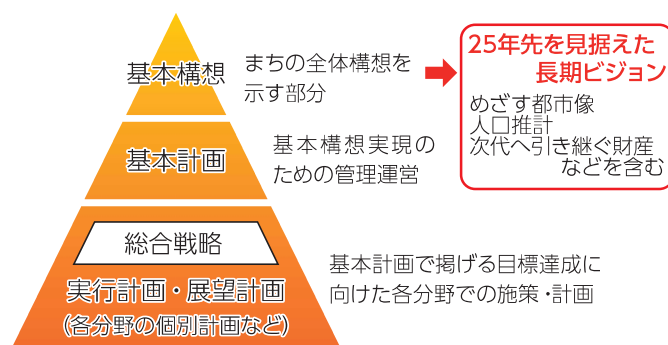
第2次総合計画（2026～2033）の考え方

まちの基本構想には、2050年を見据えた長期ビジョンとして「人口推計」や市民アンケートの分析などによる「次代へ引き継ぐ財産」を位置づけます。

国立社会保障・人口問題研究所による人口推計では、本市の人口は2050年には8,012人になると予想されています。

市では、移住・定住の促進やさまざまな人口維持の取り組みを推進することで、第2次総合計画の最終年にあたる2033年には13,200人、2050年では8,600人の人口維持を掲げます。

第2次総合計画の体系イメージ



まちづくり懇談会を開催します

第2次総合計画の策定にあたり、人口減少を見据えたまちづくりについて、市民と行政で意見交換を行います。ぜひご参加ください。

- 内** ①人口推計や総合計画に関する基本的な考え方
②持続的なまちづくり（公共施設マネジメント計画や事業アセスメント）の説明 など
※各地域における統合・休止予定施設や事務事業の取り扱いを説明します。

対市民 **印**不要

問企画課まちづくり推進係 ☎（26）7790

日程	時間	会場
2月17日（月）	午後6時～	多寄研修センター
2月18日（火）	午後6時～	温根別出張所
2月19日（水）	午後6時～	上士別構造改善センター
2月20日（木）	午後6時～	市民文化センター
2月21日（金）	午後6時30分～	朝日支所